

『六ヶ所村ラブソディー』『ミツバチの羽音と地球の回転』の鎌仲ひとみ監督最新作!

小さき声のキャン

— 選択する人々 —

2016年2月23日 (火)

難波別院にて上映会

福島—チエルノブイリ

国境を越えて
「被ばく」から子どもを守る
母たちのドキュメンタリー

1986.4.26
Chernobyl

2011.3.11
Fukushima

希望は「」にある

「保養」
ってなに?



監督 鎌仲ひとみ × 音楽 Shing02 × 製作 ぶんぶんフィルムズ

www.kamanaka.com/canon 2014年 / カラー / デジタル / 119分 / 配給: ぶんぶんフィルムズ

子どもたちに **いま** 必要な「保養」とは？



国境を越えてつながっていく、「子どもたちを守りたい」という思い。

福島原発事故後、子どもを被ばくから守るため避難を選択する人もいれば、福島で暮らすと決めた人もいます。福島で暮らすと決めたお母さんたちは、泣いてばかりでは解決しないと、子どもを被ばくから守るため自ら新しい選択肢を作り出していこうと動きだす。

一方、チェルノブイリ原発事故後のベラルーシでは子どもたちの被ばくを軽減する「保養」という取り組みが29年経った今でも続けられている。その具体的な内容と驚くべき効果とは？

事故から4年、日本でも被ばくを軽減する新しいステージが始まった。放射能についての危機感がしだいに薄れ、事故の風化がささやかれる今だからこそ、誰もが観るべきドキュメンタリー。



同じように悩み、迷ってきた母親の一人です。
現実には厳しいけれど、
お母さんたちの連帯から生まれる
希望が描かれていることに、励まされました。
この映画を通して、
さらなる連帯が広がることを願っています。

俵万智さん（歌人）



小さき声のカノン — 選択する人々

出演：福島県二本松市のお母さんたちほか
監督：鎌仲ひとみ プロデューサー：小泉修吉 音楽：Shing02 撮影：岩田まきこ 録音：河崎宏一 編集：青木亮 助監督：宮島裕
宣伝：梶谷有里 村井卓実 製作・配給：ぶんぶんフィルムズ 2014年/カラー/デジタル/119分 © ぶんぶんフィルムズ

www.kamanaka.com/canon

お問い合わせ 「小さき声のカノン」プロジェクト TEL 03-3341-2870 MAIL movie@kamanaka.com

「保養」とは...

子どもたちが健康を取り戻すための“合宿”のようなもの。1986年、チェルノブイリ原発事故を経験したベラルーシでは、今年間10万人の子どもたちが保養を受けている。日本でも市民グループが全国各地で保養を始めている。



日時 **2016年2月23日(火)**

午後5時から (開場4時半)

映画上映約2時間、トーク約1時間、午後8時頃終了予定

入場料 **1,000円** (当日受付にてお支払いください。)

上映後、鎌仲ひとみ監督のトークを行います！

鎌仲ひとみ（映像作家）。早稲田大学卒業後ドキュメンタリー制作の現場へ。90年初作品「スエチャおじさん」監督、文化庁助成を受けカナダ国立映画制作所へ。93年からNYにてメディア・アクティビスト活動。95年帰国、フリー映像作家としてテレビ番組、映画を監督。2003年ドキュメンタリー映画「ヒバクシャ世界の終わりに」以降、2006年「六ヶ所村ラプソディー」、2010年「ミツバチの羽音と地球の回転」で、核を巡る三部作完成。2012年DVD「内部被ばくを生き抜く」発売。新作「小さき声のカノン」は、2015年3月より全国で公開中。



会場

大阪市中央区久太郎町4丁目1番11号
難波別院同朋会館 講堂

大阪市営地下鉄御堂筋線「本町」駅
13号出口から南へ徒歩1分

※ご来場には公共交通機関をご利用ください。

主催／真宗大谷派大阪教区

「原発に依存しない社会の実現を目指す委員会」

